

## 腎移植後の尿沈渣から 2,8-DHA 結晶を認めた一例

◎向窪 七海<sup>1)</sup>、川満 紀子<sup>1)</sup>、白濱 早紀<sup>1)</sup>、上田 沙央理<sup>1)</sup>、上原 亜弥<sup>1)</sup>、堀田 多恵子<sup>1)</sup>  
国立大学法人 九州大学病院<sup>1)</sup>

【はじめに】2,8-ジヒドロキシアデニン(2,8-DHA)結晶は、常染色体劣性遺伝の疾患であるアデニンホスホリボシルトランスフェラーゼ(APRT)欠損症で尿中に認められる異常結晶である。2,8-DHA は難溶性であるために結晶化しやすく、尿路結石症の原因となり、腎不全に至る場合もある。今回、我々は原疾患不明の末期腎不全に対して生体腎移植が行われた患者の尿中に 2,8-DHA 結晶を認めた症例を経験したので報告する。

【症例】60 歳代男性。20 歳代より尿路結石を繰り返していた。50 歳代より尿蛋白と血清クレアチニン上昇を指摘されており、徐々に腎機能障害が進行したため当院に紹介され、生体腎移植を行った。生体腎移植 1 カ月後の尿沈渣中に褐色で円形の結晶を認め、結晶は形態から 2,8-DHA 結晶が疑われた。また、結晶を封入した円柱も同時に認めたことから腎機能障害との関連が疑われた。臨床に 2,8-DHA 結晶が疑われることを報告し、その後 APRT 欠損症に対する治療薬フェブキソスタットの内服が開始された。現在は、尿沈渣中に 2,8-DHA 結晶は認め

られず、腎機能は良好である。

【尿検査所見（生体腎移植 1 カ月後）】  
pH5.0、蛋白(-)、糖(-)、潜血(±)、赤血球：1 個未満/HPF、白血球：10~19 個/HPF、尿細管上皮細胞：1 個未満/HPF、褐色で円形の結晶を認め、結晶円柱(+)であった。結晶の化学的性状確認を行ったところ、10%KOH に溶解し、EDTA 加生理食塩水に不溶であった。また、後日行われた腎生検の組織像においても、褐色調の結晶が尿細管や間質に沈着していた。

【まとめ】2,8-DHA 結晶は比較的稀な結晶であり、尿酸塩と形態が類似するが、形態と鑑別法によって推測することは可能である。今回は、原疾患が不明のまま施行された生体腎移植後の尿沈渣から 2,8-DHA 結晶が認められ、臨床への報告により移植腎の機能障害を未然に防ぎ得た症例と考えられる。改めて疾患の早期発見、治療に対する尿沈渣の重要性を認識させられた症例であった。  
連絡先：092-642-5758